

ANM176® は、どのようにして認知症の予防や改善に効果を発揮するのか？

生物は有害物に遭遇するとストレスとして受けとめ、通常、これらのストレスを受けてから、その排除に向け対処します。この古くから生物に備わった仕組みは自然免疫とされています。通常、免疫と言っているのは高等生物だけに備わっている獲得免疫のことで、獲得免疫は自然免疫をベースに記憶した有害物を排除する仕組みです。

このように、生物は免疫によって有害物質の排除や無毒化をしますが、このストレス排除の力をストレス耐性と言います。このストレス排除時に多かれ少なかれ炎症が起こり、ストレスがストレス耐性を上回ると炎症は慢性状態になって、ついには死に至ることもなります。

幼少期には低いストレス耐性は段々と強くなって壮年期にはピークとなり、高齢期になると再び低下します。高齢になると熱中症になったり登山で高山病になったりするのにはストレス耐性が低下しているためです。風邪をひいただけで肺炎になるのもそのせいです。一方、ストレス耐性を増強する成分が自然界にあり、これらの中には食事から摂取できる成分もあります。これら食事から摂取できストレス耐性を増強する成分は幾種類か知られており、フェルラ酸もその1つです。人間が吸収できるフェルラ酸は果物や豆類に含まれていますが、これらは1Kgあたり数mgから10mg程度です。一方、お米や麦のヌカ部分には1Kgあたり数100mgという自然界では稀に見る高濃度のフェルラ酸が含まれています。ご飯や小麦粉食品を主食とする日本人は、大部分のフェルラ酸摂取を米や小麦のヌカ部分に頼っており、ヌカ部分を完全に取り除いた白米や精製小麦粉を使っている現代の日本人は、フェルラ酸が不足している可能性があります。認知症を代表するアルツハイマー病（以下ではADと言います）は、高齢になるほど発症率が高くなりますが、日本人の場合は高齢化だけでは説明できないほどADが増加しています。ANM176®には炎症を抑制する成分が含まれているガーデンアンゼリカ根を選別して使っています。これら炎症抑制成分はセロリーなどせり科の野菜からも摂取できるはずですが、農薬使用やハウス栽培で育った現代の野菜には安定的に含まれていない可能性があります。ヨーロッパで使用されているガーデンアンゼリカ根の多くにもこの重要な成分が安定して含まれていません。

ADの原因たんぱく質と言われているアミロイドβは、高齢者の脳内にありうる濃度で著しく記憶力や学習を低下させる作用（以下ではアミロイドβ神経毒性と言います）があります。お米のヌカから抽出したフェルラ酸とガーデンアンゼリカ根の抽出物を配合したANM176®は、最も効果的にアミロイドβ神経毒性を抑制できるように13種類の成分を組合わせた素材で、ADの予防や改善に有用な可能性が臨床試験で示されています。

ストレス耐性と炎症は密接に関係し、ANM176®は現代の食事では不足気味のストレス耐性増強成分と炎症抑制成分を補給し、高齢によるストレス耐性の低下と様々な炎症を抑制してADの予防や改善に役立つと考えられます。長期間の使用に耐えられるためには食事から摂取できる量の成分であることが重要で、トウキに含まれアミロイドβ神経毒性を抑制する13成分の研究から開発されたANM176®は、現代の食事では安定して摂取できていない成分を補給する稀な素材です。

一般社団法人認知症予防・改善推進会は、地域の高齢者が無料で認知機能の検査が受けられる「認知機能検査サービス」の準備をしています。この検査で認知症が疑わしい場合、ANM176®の利用者は、本サービスで推奨された認知症専門医の検診を実質無料で受けることができます。

また、家庭でも認知機能をチェックできる「ANM176®使用者のチェックサービス」も用意しています。

以上の詳細は URL : http://ninchi-yobou.jp/interested/pdf/anm176_kouka.pdf をご参照ください。